



10月号 (No.7)

2025年9月25日

帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

真の学力とは

帝京大学小学校 校長 石井卓之

運動会時程が開始され、いよいよ各学年が運動会に向けて進んでいきます。2年生以上の保護者の皆様は帝京大学小学校の運動会を経験されていますが、本校の運動会の特徴は可能な限り「自分の頭で考える」機会を増やし、役割や活動の場を「任せる」ことにあります。2学年の縦割りの表現種目を固定して、上学年が自分の学びを活かして下学年に教えることを実施しています。運動会の形式自体は昔から変わらない伝統を守りつつ、内容をこれからの社会で求められる力を育成するようにしています。毎年学校だよりに書かせていただいておりますが、全学年が一緒に踊り、他学年と一緒に盛り上げる表現種目は他校にはない本校のよさだと確信しています。

運動会の学びもそうですが、これからの社会で求められる「真の学び」とは、自ら意欲をもって課題に取り組み、試行錯誤しながら自己決定をし、解決方法を見つけ出して粘り強く取り組むことだと考えています。そのためには、学びのための基礎・基本は欠かせません。学びのベースがなければ子どもたちは自ら自走することはできません。残念なことに「自主性」が強調されると、学校現場では基礎を軽視して「任せる」ことに重点がかけられる傾向があります。本校では、基礎・基本をしっかりと学ばせるとともに、課題解決の方法についても丁寧に指導をしています。その上で、その力を大学グループの教育指針である「実学・開放性・国政性」を活かした「探究」の授業で社会に出てから使える「真の学力」となるように授業を工夫しています。ここで身につく学力は「思考」と深く関わり、「受験」に向けての資質・能力を高めることにもつながります。

6年生のプログラミング学習のまとめとしてゲーム企業のセガさんを招いての授業は、ぶよぶよのJavaコードを使用しながら学んでいます。当初、一般的な小学生に対して行う授業をしてきましたが、本校の6年生には簡単すぎるため現在では中学生レベルの内容を行ってもらっています。また、昨年度から始めている三菱UFJの「金融教育プログラム」では、プロトタイプとして三菱本部が作成した授業案で1年生から5年生まで銀行の方が授業を実施し、本校の教員がそれに対して改善案を提示しました。それを受けた本部では、一般の小学校の内容では簡単すぎるので、今後中学校で指導する内容を踏まえて改善案を作成していきたいとの回答がありました。学校内にいると気がつかない子どもたちの能力を、外部の方が明らかにしてくれることも、企業連携のよさだと感じています。

5年生はいよいよ「帝小カンパニー」の製品作成に取りかかりますが、先日5年生の担任の東教諭が「1学期に比べて、コミュニケーション能力が伸びてきています。その要因に帝小カンパニーでの「起業」への取り組みがあります。」と教えてくれました。また、昨年度の5年生の「帝小カンパニー」の授業分析と子どもたちへのインタビュー分析から、柄澤教諭は「責任感」が優位に伸びたことを大学院の論文に書いています。教育は数値化が見えにくい、効果が即座に現れにくいとよく言われますが、できるだけエビデンスを得られる努力を続け、授業改善を図ることで、子どもたちの「真の学力」も伸ばし続けていきます。

ご協力いただきました6年生の「バリ島との連携授業」では、先方よりコーヒーの苗木300本、カカオの苗木100本、アグロフォレストリーを取り入れた土地再生の仕組みの一環として多目的樹木を200本植えたいとの提案がありました。「アグロフォレストリー」は私も詳しくないので、学びを深めたいと思いました。「寄付」についても、世界各国に対する取り組みがありますので、今後とも6年生が自ら見つけ出して自己決定する学びに広げられると考えています。ご協力、本当にありがとうございました。

職員室の窓



今年5月より、帝京大学宇都宮キャンパスから小学校事務室に参りました沖森千夏です。子どもたちの笑顔や元気な姿に日々癒され、励まされています。大学とは環境も大きく異なりますが、一日でも早く皆様のお役に立てるように努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

《事務室 沖森千夏》